

第10回

希求、  
未来への創造

Enku Grand Award Exhibition

# 記録映画作家 羽田澄子 特別上映会

初期作品から近作まで 12作品を一挙上映!

# 円空大賞展



「早池峰の賦」 1982 186分 16mm カラー 自由工房作品  
演出：羽田澄子 撮影地：岩手県大迫町



「嗚呼 満蒙開拓団」 2008 120分 DVCAM 自由工房作品  
演出：羽田澄子

## 関連イベント3

### ○日時

2月 9日 (日)  
2月12日 (水)  
2月15日 (土)  
2月22日 (土)  
2月24日 (月)

### ○場所

岐阜県美術館講堂  
岐阜県図書館  
多目的小ホール  
事前申込み不要  
無料

(詳細は裏面を参照)



「雑島の嶺」 1977 42分 16mm カラー  
脚本・演出：羽田澄子 撮影地：岐阜県根尾村



はねだ すみこ  
羽田 澄子

(第10回円空賞作家)

満州：大連市出身

岩波映画製作所の創立とともに入社、記録映画の演出に携わる。定年退職後はフリーの記録映画作家として精力的に活動を続け、多くの話題作を生み出す。



お問い合わせ

岐阜県美術館

THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU  
岐阜市宇佐 4-1-22 Tel. 058-271-1313 Fax 058-271-1315  
URL <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

# 映像の可能性を見つめて！

2月 9日 (日) 岐阜県図書館 多目的小ホール

10:30-11:54 痴呆性老人の世界 1986年/84分/企画製作:岩波映画

認知症をテーマにした学術映画を作った羽田が、「この問題を一般の人にも知ってもらいたい」と考え、岩波映画に提案し実現した作品。劇場公開では大ヒットし、それまで家庭の内部で抱えられていた認知症高齢者のケアの問題がオープンになるきっかけともなった。認知症高齢者一人一人の世界が鮮やかに、暖かく捉えられていて、介護を巡る状況が変化した今見ても、心に迫る作品である。

13:00-15:31 安心して老いるために 1990年/152分/企画製作:自由工房

『痴呆性老人の世界』で日本の高齢化社会の現実に向き合った羽田が、「安心して老いるためには、どのような仕組みが社会に必要なか」というテーマでつくった作品。舞台は岐阜県の池田町。そこで先進的な介護に取り組む特別養護老人ホーム、サンビレッジ新生苑と、福祉に力を入れようとした町の取り組みを追う。福祉のあるべき姿を求めて、デンマーク、スウェーデン、オーストラリアも訪問する。

2月12日 (水) 岐阜県美術館 講堂

10:30-10:52 古代の美 1958年/22分/企画:東京国立博物館 製作:岩波映画

初期の傑作。東京国立博物館からの依頼で製作された作品。縄文、弥生、古墳時代の土器や土偶など古代の美術品を紹介する。印象的なクローズアップ、動く埴輪、効果的な音楽など自由な演出が冴え渡り、博物館に静止しているモノが命を与えられたように生き生きと見るものに迫る。

10:55-11:15 法隆寺献納宝物 1971年/20分/企画:東京国立博物館 製作:岩波映画

明治時代に法隆寺から皇室に献納された奈良・飛鳥時代の工芸品や仏像(東京国立博物館所蔵)を紹介する作品。実験的な手法が散りばめられた映画で、観客を博物館へ導く少女が登場し、宝物の来歴を語る解説的な男性の言葉に、詩的な少女の言葉が合ざるダブル・ナレーションが駆使される。宝物を見つめながら古き時代へ誘われるような、ファンタジックとも言える作品である。

11:17-11:59 薄墨の桜 1977年/42分/自主作品

岐阜県根尾川の上流にある推定樹齢1500年余とも言われる桜の古木。一千数百年生き続けてなお花を咲かせている古木に魅せられた羽田は、「この桜を撮るだけで、短く美しい音楽のような映画ができる」と思い立った。岩波映画に在籍しながら、夫でもある工藤充プロデューサーのサポートを得て、4年かけて完成させた記念すべき初めての自主作品。

13:00-16:06 早池峰の賦 1982年/186分/自主作品

岩手県の早池峰山は、古くから人々の信仰を集めた山で、修験者たちの修行場となっていた。この修験者によって伝えられたという山伏神楽が、山麓の二つの集落、岳と大償に伝承され、早池峰神楽(重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産)と呼ばれている。早池峰神楽と、その芸能を何百年間も伝えてきた山村の生活を四季を通して描いた本作には、人間の生きる原点が映し出されている。

2月15日 (土) 岐阜県美術館 講堂

10:15-11:55 山中常盤-牛若丸と常盤御前 母と子の物語- 2004年/100分/企画製作:自由工房

近世初期に活躍した絵師、岩佐又兵衛の絵巻「山中常盤」を題材にした美術映画。「絵巻物は昔、今の映画や劇画のような役割を果たしていたのではないか」という羽田の発想で作られた作品で効果的なカット割りやクローズアップ、カメラワークによって、映画のスクリーンいっぱい絵巻が「躍動」する。音楽も大きな見所で、人間国宝、鶴沢清治が作曲し、豊竹呂勢大夫が語る素晴らしい浄瑠璃が全編に流れ、絵巻の世界を蘇らせている。

13:00-14:26 歌舞伎役者片岡仁左衛門 第5部 孫右衛門の巻

1992年/86分/企画:仁左衛門丈の芸談をきく会 製作:自由工房

映画『歌舞伎役者片岡仁左衛門』は、当時歌舞伎界の最長老であった13代目片岡仁左衛門の84歳から90歳で亡くなるまでの記録である。全6巻の大作で、製作に7年の歳月を費やし、舞台や楽屋、稽古場、氏の貴重な芸談から私生活に至るまで、その芸の深さと人間としての魅力を余すところなく捉えた作品である。今回上映する第5部は、平成元年(1989年)10月に歌舞伎座で上演された『恋美脚大和往来』の稽古と本舞台の記録で、孫右衛門を仁左衛門、忠兵衛を孝夫(現仁左衛門)、八右衛門を我當、梅川を中村雀右衛門が演じている。

2月22日 (土) 岐阜県美術館 講堂

10:15-12:15 嗚呼 満蒙開拓団 2008年/120分/企画製作:自由工房

後期の傑作。1932年の満州国建国以来、国策で多くの日本人が中国に渡ったが、1945年の敗戦によって遺棄されたも同然の悲惨な運命を辿る。2002年に起こった中国「残留孤児」国家賠償請求訴訟に関心を寄せていた羽田は、中国人が建てた「方正地区日本人公墓」の存在を知り、映画の撮影を開始した。自らも旧満州生まれである羽田が、日中友好と平和への思いをこめて作った作品である。

13:00-14:50 遙かなるふるさと-旅順・大連- 2011年/110分/企画製作:自由工房

羽田は大正15年(1926)、旧満州の大連市で生まれ、少女時代を旅順で過ごした。2009年に、軍港として長く渡航が難しかった旅順が外国人に開放されたのを機に、羽田はカメラとともに、かの地を「ふるさと」とする日本人のツアーに参加し、思い出を巡る。しかし、旅順・大連は、中国でありながら、ロシアや日本の支配を受けた土地である。「ただ懐かしく思っただけでよいところではない」ふるさとを再訪した羽田は、当時は知り得なかった複雑な歴史にも視線を向ける。思い出と歴史と現在が交錯する、自伝的シネエッセイ。

2月24日 (月) 岐阜県図書館 多目的小ホール

10:15-12:02 AKIKO あるダンサーの肖像

1985年/107分/企画:アキコ・カンダ事務所 製作:自由工房作品

モダンダンスの第一人者、アキコ・カンダ(1935-2011)。「ダンス馬鹿のアキコを撮ってほしい」という本人の希望から生まれた本作は、円熟期を迎えたアキコ・カンダの公演「マグダラのマリア」(1985年)へ向けての創作、稽古、本舞台での素晴らしい踊りを捉える。しかし映画はそこで終わらず、カメラは公演終了後のアキコの日常生活、家族たち、そして次の創作に向かう姿を見つめる。

13:00-15:20 -元始、女性は太陽であった-平塚らいてうの生涯

2001年/140分/企画:平塚らいてうの記録映画をつくる会 製作:自由工房

日本の女性運動の先駆けとなった平塚らいてう。1911年に発刊された女性だけの手による文芸誌「青鞥」の中で宣言された「元始、女性は太陽であった」という言葉は有名である。「誰でも知っているようで、詳しくは知られていないらいてう。しかしその名を聞くと全ての女性の心に灯りがともる」と羽田は言う。生前の動くらいてうの映像が14秒しかない中、らいてうの自伝をもとに、子供時代から青鞥時代、そして注目を集めることの少ない「青鞥」以後の平和運動まで、その生涯に迫った作品である。